

16. 目的意識・充足感について

Q64 大学に進学した主な理由はどれですか [択一]

大学に進学した主な理由に関して、「好きな分野の勉強をするため」と回答した学生は 40.7%と最も多く、次いで「学歴を得るため」15.1%、「就職に有利だから」15.0%と続いている。男女別にみると、女子学生の「好きな分野の勉強をするため」と回答している割合は、男子学生より高い。

2010年度と比較すると、どちらの年度も「好きな分野の勉強をするため」が最も高く、その他の選択肢についても大きな変化はみられなかった。

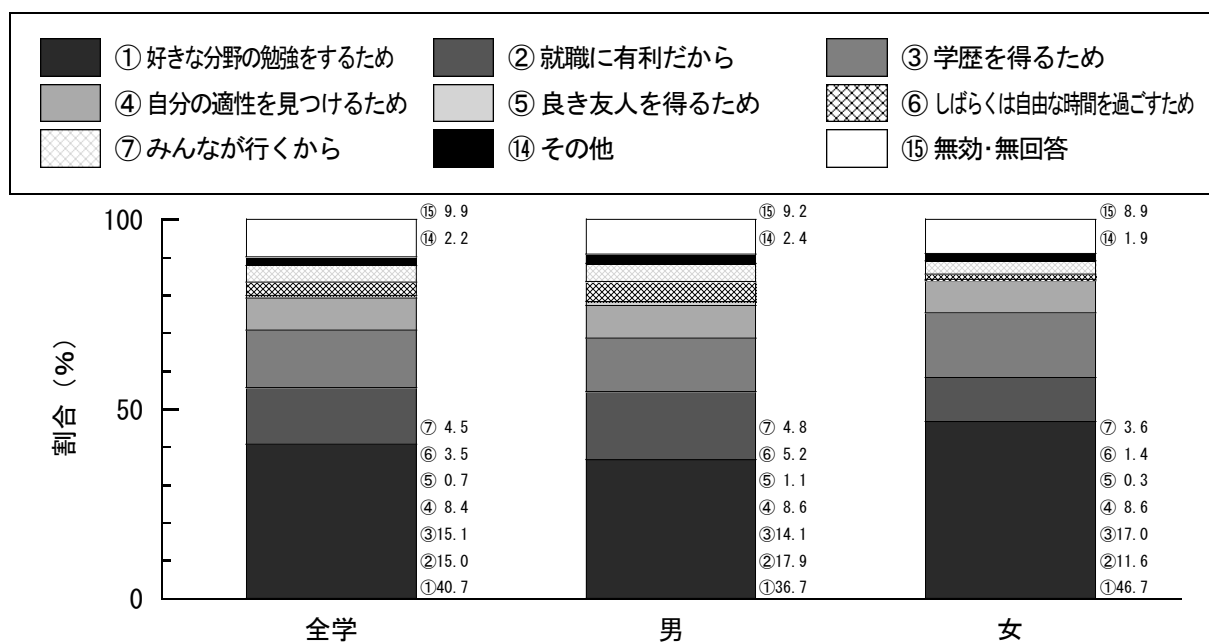


図 16-1-a Q64 の集計結果 (全学・男・女別)

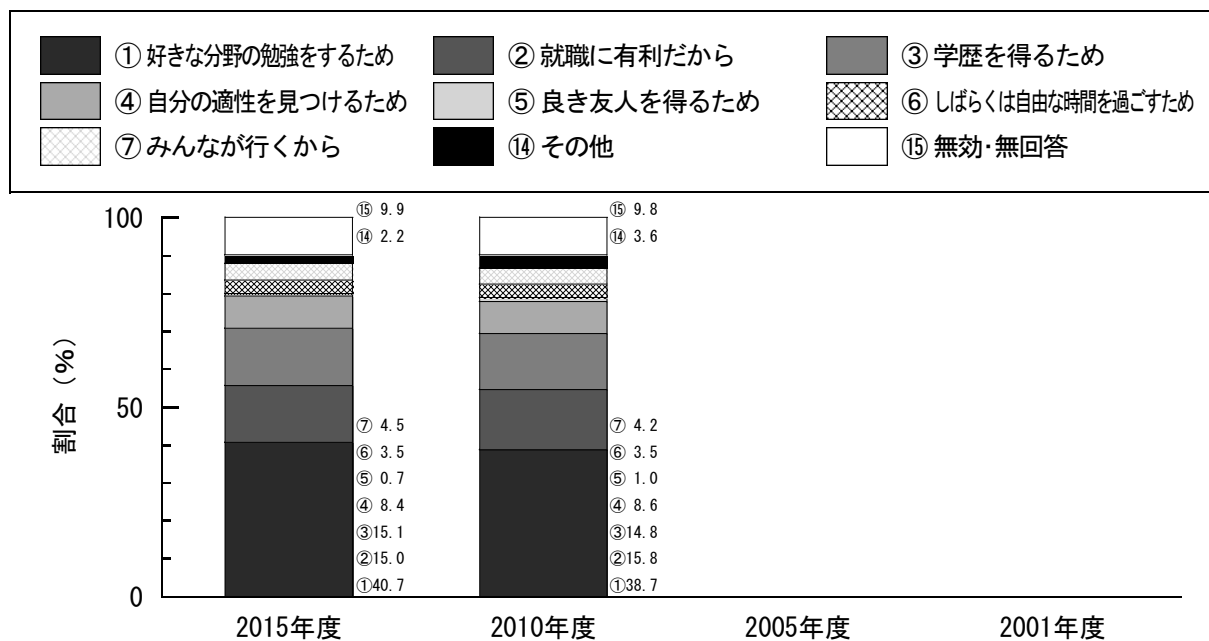


図 16-1-b Q64 の集計結果 (全学に関する調査年度別)

Q65₁ 大学生活において、現在どんなことに力を入れていますか

(力を入れている順に3つ選択して右欄に記入してください) <優先度第1位>

学生が1位にあげた回答では、「勉学」が最も高く41.9%、次いで「課外活動」の16.1%であった。男女に大きな違いは認められなかった。

「勉学」や「課外活動」が高いという傾向は2010年度の調査結果と同じであったが、「勉学」と答えた学生は6.8%増加している。

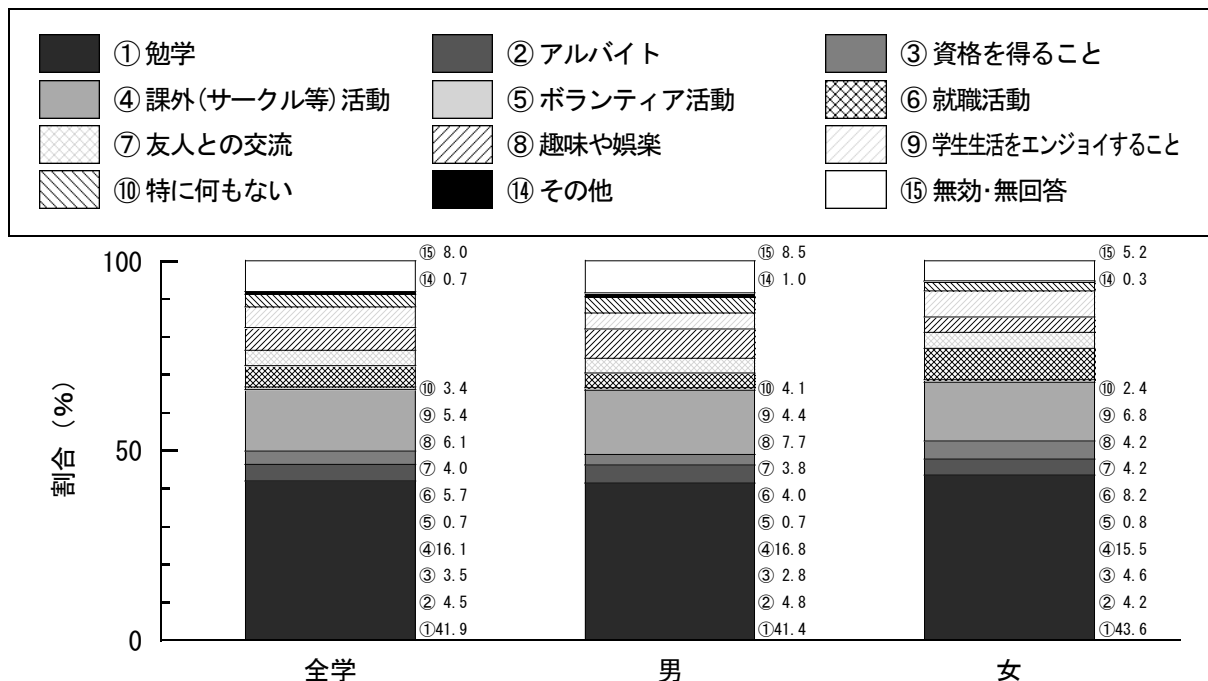


図 16-2-a Q65₁の集計結果 (全学・男・女別)

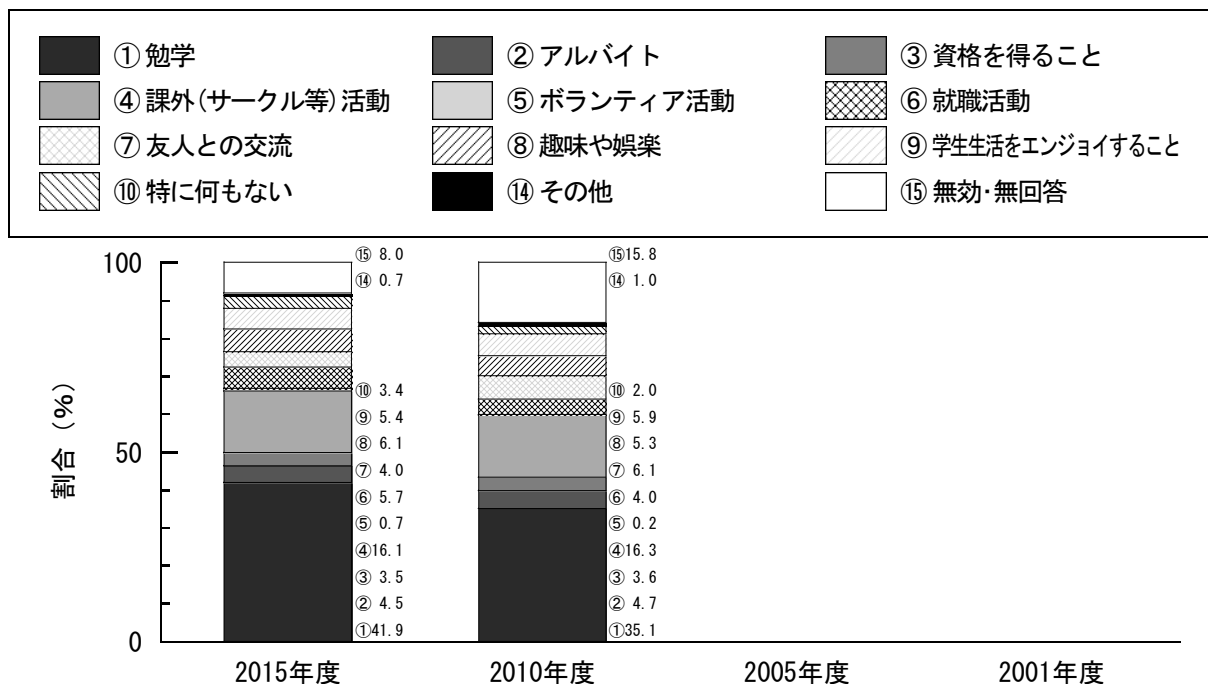


図 16-2-b Q65₁の集計結果 (全学に関する調査年度別)

Q65₂ 大学生活において、現在どんなことに力を入れていますか

(力を入れている順に3つ選択して右欄に記入してください) <優先度第2位>

学生が2位にあげた回答では、「課外(サークル等)活動」が15.1%と最も高く、次いで「勉学」14.8%であった。男女間比較および2010年度の調査結果との比較において、大きな違いは認められなかった。

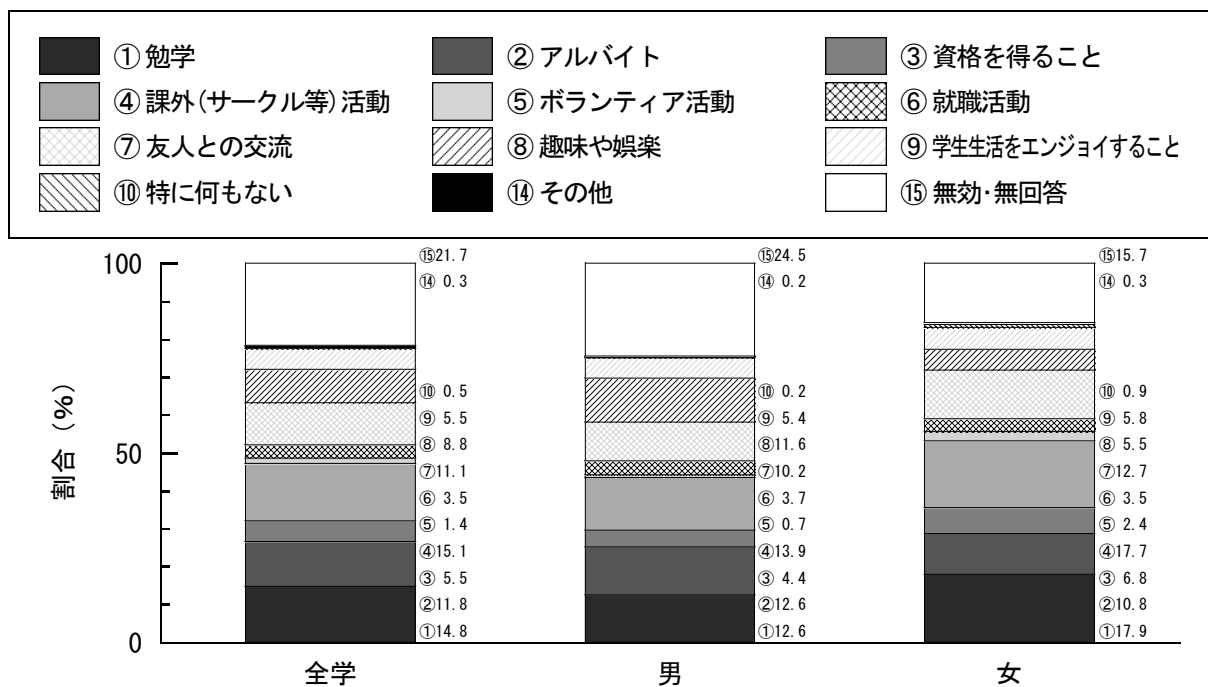


図 16-3-a Q65₂の集計結果(全学・男・女別)

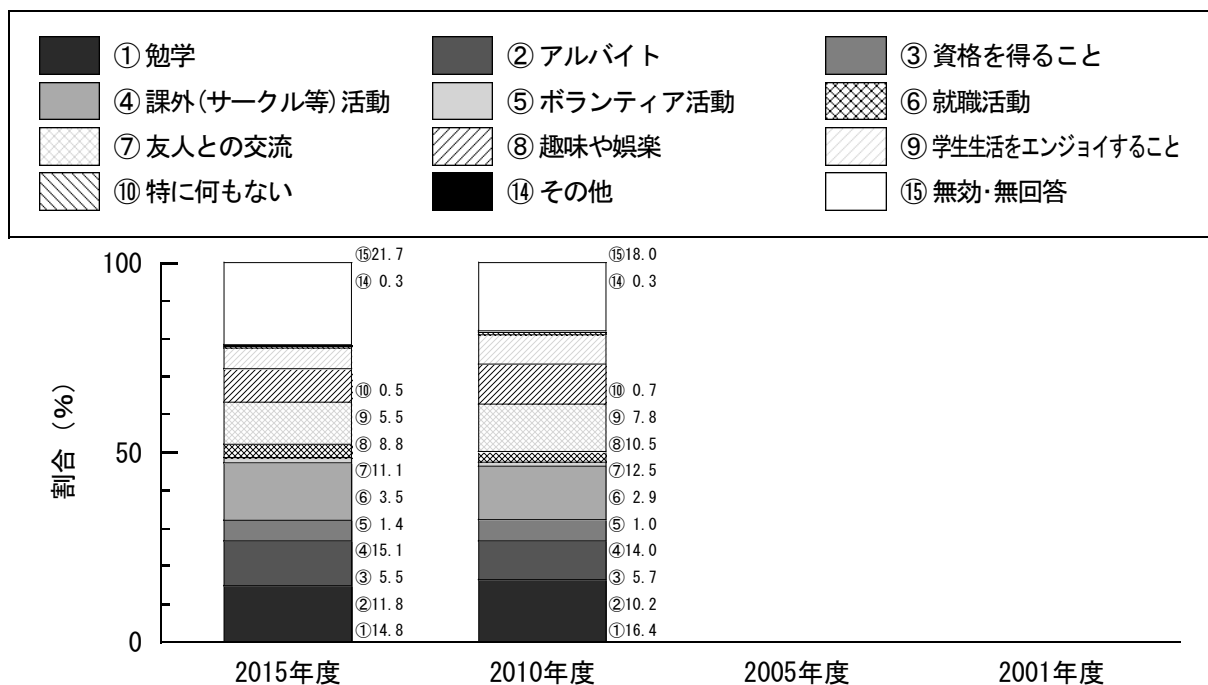


図 16-3-b Q65₂の集計結果(全学に関する調査年度別)

Q65₃ 大学生活において、現在どんなことに力を入れていますか

(力を入れている順に3つ選択して右欄に記入してください) <優先度第3位>

学生が3位にあげた回答では、当然ながら分散して明確な特徴はみられない。それは、男女間比較および2010年度の調査結果との比較においても同様であった。

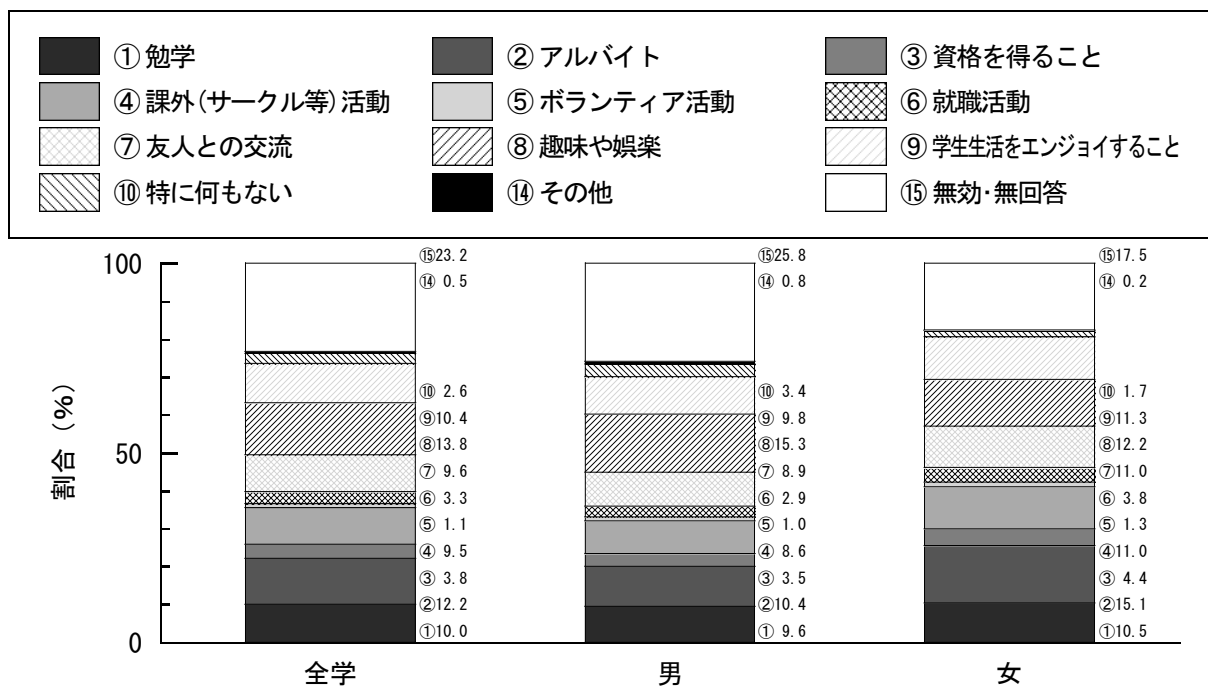


図 16-4-a Q65₃の集計結果 (全学・男・女別)

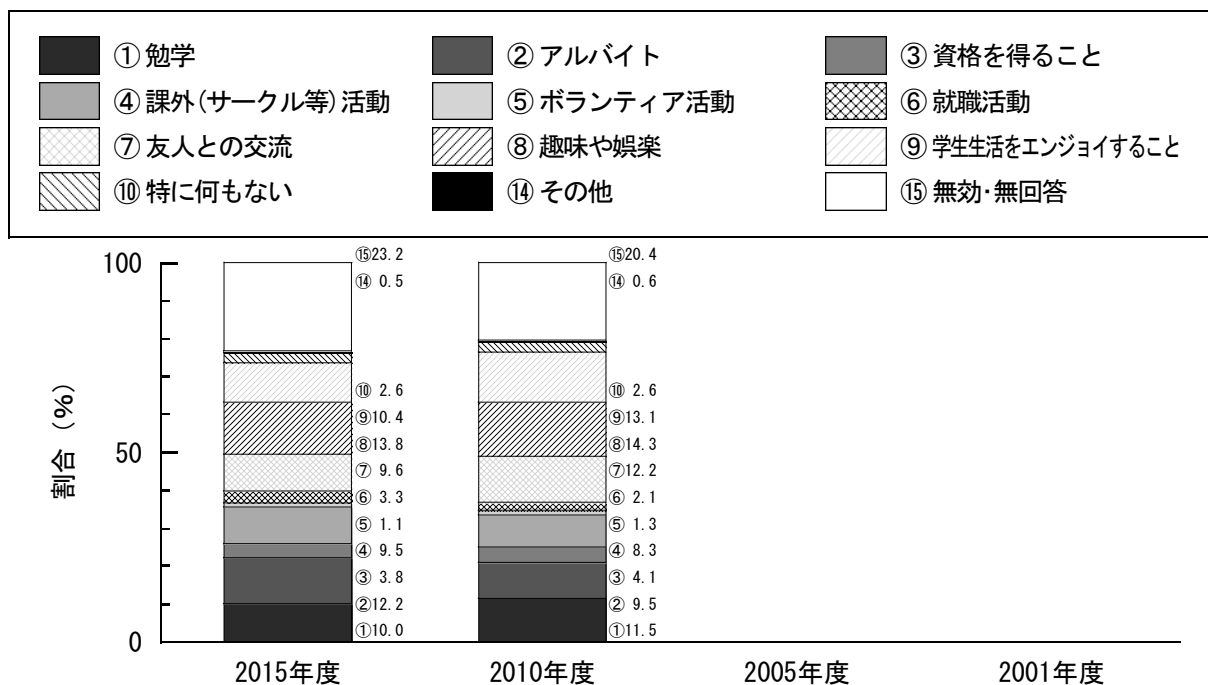


図 16-4-b Q65₃の集計結果 (全学に関する調査年度別)

Q66 全体として大学生生活に満足していますか [択一]

大学生生活の満足度に関して、「まあまあ満足している」と回答した学生が 52.8%と最も多く、次いで「満足している」27.6%であった。両者を合計するとおよそ 8 割に達し、多くの学生が肯定的な回答をしている。男女別にみると女子学生のほうに肯定的回答が多く、8 割を超えている。

2001 年度において肯定的回答は 71.3%であったが、2010 年度と 2015 年度ではおよそ 8 割と増加している。

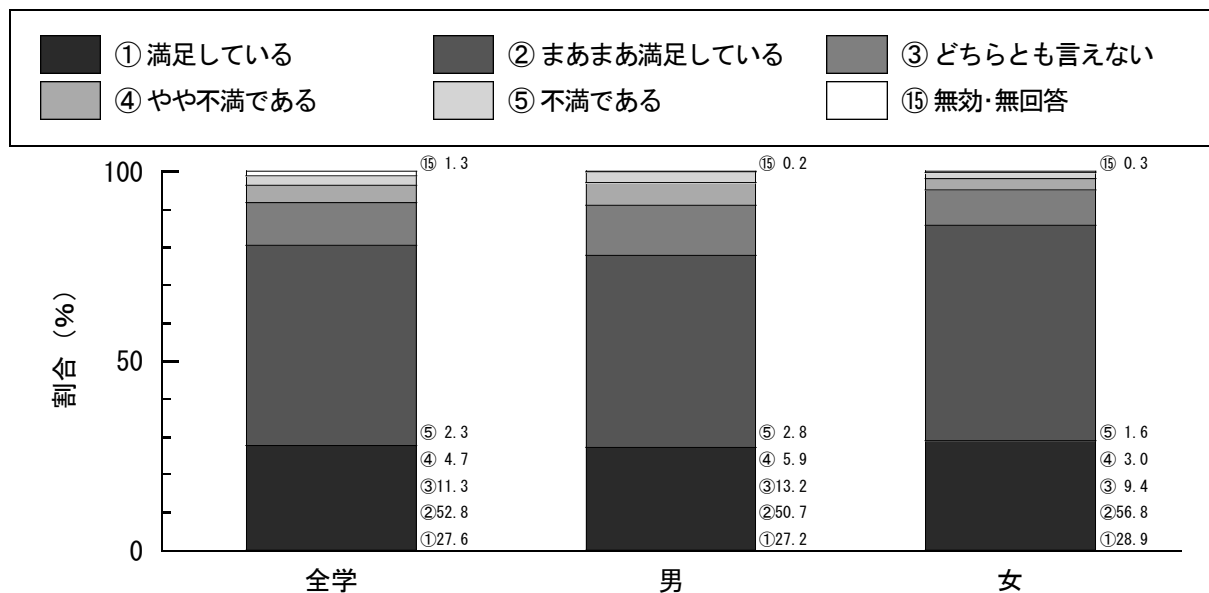


図 16-5-a Q66 の集計結果 (全学・男・女別)

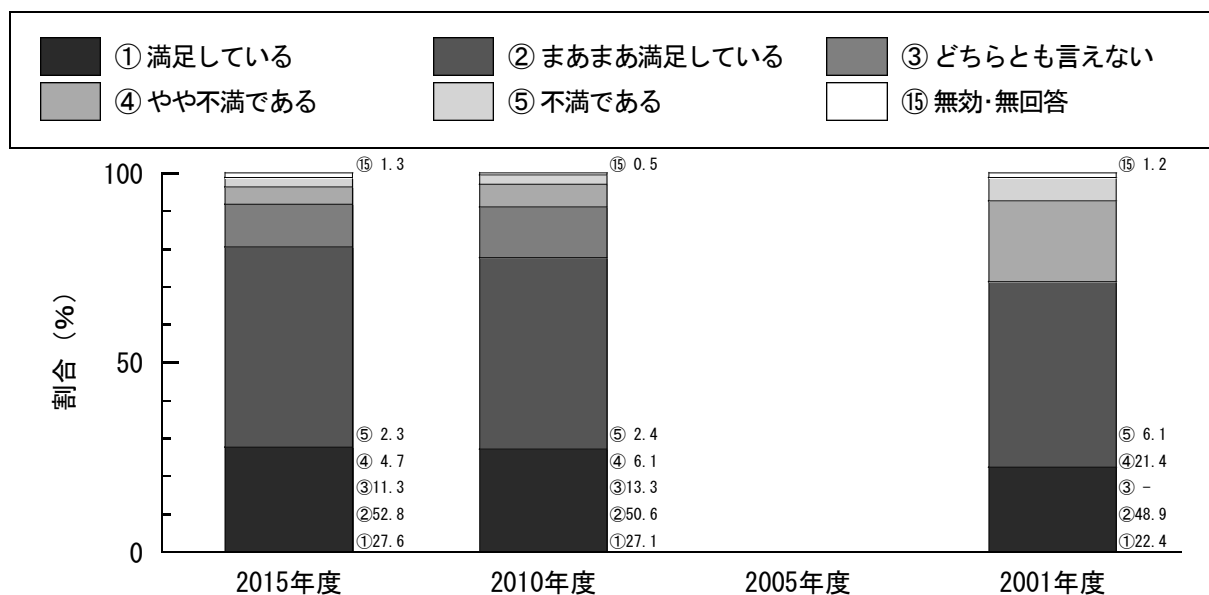


図 16-5-b Q66 の集計結果 (全学に関する調査年度別)

Q67 あなたは山口大学をやめたいと思ったことがありますか [択一]

山口大学をやめたいと思ったことが「ある」と回答したのは全体の約5分の1の学生であった。男女間に差はみられなかった。

過去3回の調査結果と比較すると、「ある」と答えた学生の割合は減少傾向にあることがわかり、この15年で約15%減少している。

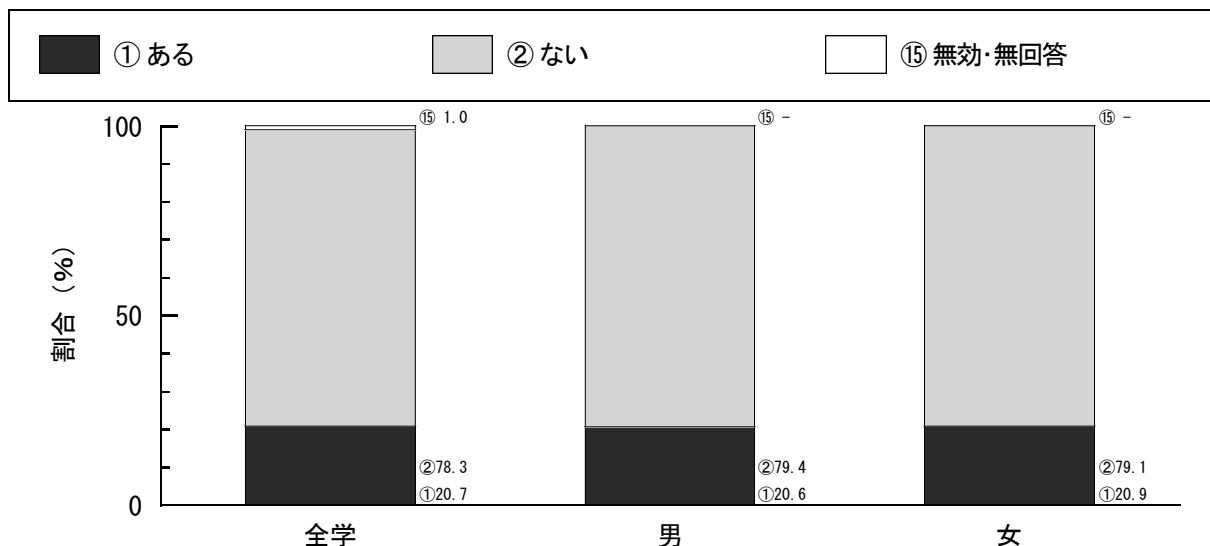


図 16-6-a Q67 の集計結果 (全学・男・女別)

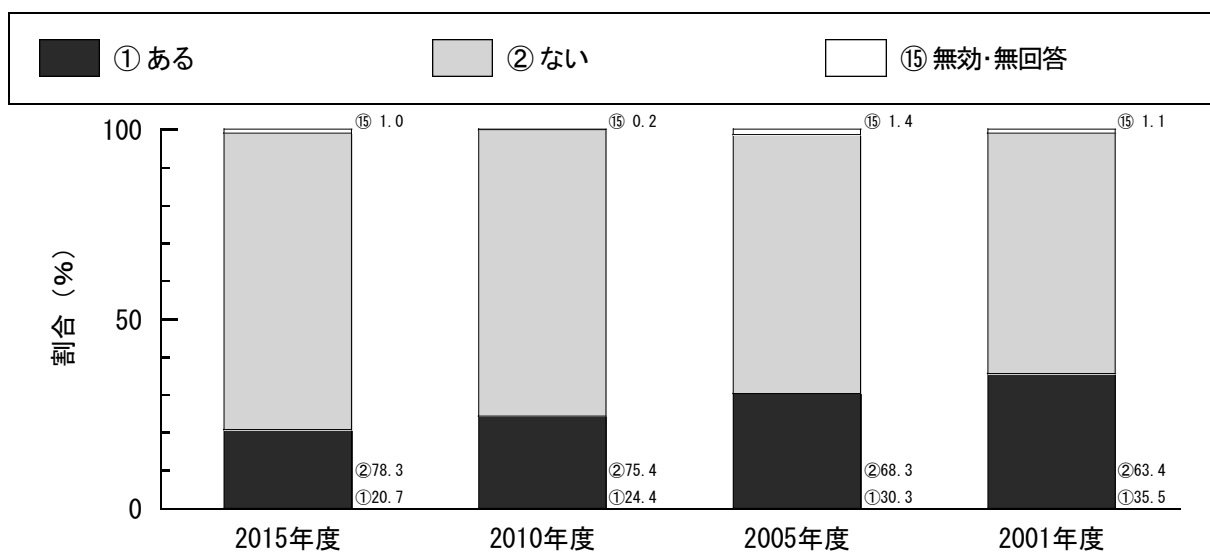


図 16-6-b Q67 の集計結果 (全学に関する調査年度別)

Q67-SQ1 それほどの理由からですか〔複数選択可〕

山口大学をやめたいと思ったことが「ある」と回答した学生にその理由を尋ねたところ、「在籍する学部(学科)が自分の適正に合わないから」と回答した学生 37.0%と最も多く、次いで「大学の授業やカリキュラムに興味を持っていないから」が 35.0%であった。

2010 年度と比較してみると、「在籍する学部(学科)が自分の適正に合わないから」が 45.3%から 37.0%に減少している。反対に「勉強についていけない」に関しては 13.6%から 21.2%に大きく増加している。

表 16-1-a Q67-SQ1 の集計結果 (全学・男・女別)

	全学	男	女
在籍する学部(学科)が自分の適正に合わないから	37.0	37.2	35.3
友人関係や大学での人間関係がうまくいかなかったから	26.0	22.1	31.6
大学の授業やカリキュラムに興味を持っていないから	35.0	36.6	33.1
家庭の事情	7.7	6.4	9.0
健康上の問題	7.4	4.1	12.0
勉強についていけない	21.2	23.3	18.8
その他	13.5	16.9	9.8

表 16-1-b Q67-SQ1 の集計結果 (全学に関する調査年度別)

	2015年度	2010年度	2005年度	2001年度
在籍する学部(学科)が自分の適正に合わないから	37.0	45.3	38.0	
友人関係や大学での人間関係がうまくいかなかったから	26.0	23.2	20.4	
大学の授業やカリキュラムに興味を持っていないから	35.0	37.1	43.3	
家庭の事情	7.7	5.9	7.0	
健康上の問題	7.4	4.3	3.6	
勉強についていけない	21.2	13.6	20.7	
その他	13.5	17.9	22.6	

Q68₁ 山口大学に対して優先的に取り組んでもらいたいことは何ですか

(優先順位の高い順に3つ選択して右欄に記入してください) <優先度第1位>

山口大学への要望に関して3つ選択してもらった。最も優先度の高かったものに関して、「キャンパスの整備・美化」と回答した学生が15.9%と最も多く、次いで「福利厚生施設(食堂・売店)の充実」14.4%、そして「講義・カリキュラムの充実」14.2%となっている。男女別にみると女子学生において「講義・カリキュラムの改革」を求める割合が高いように感じられる。

2010年度と比較すると、全体的には大きな変化は認められない。

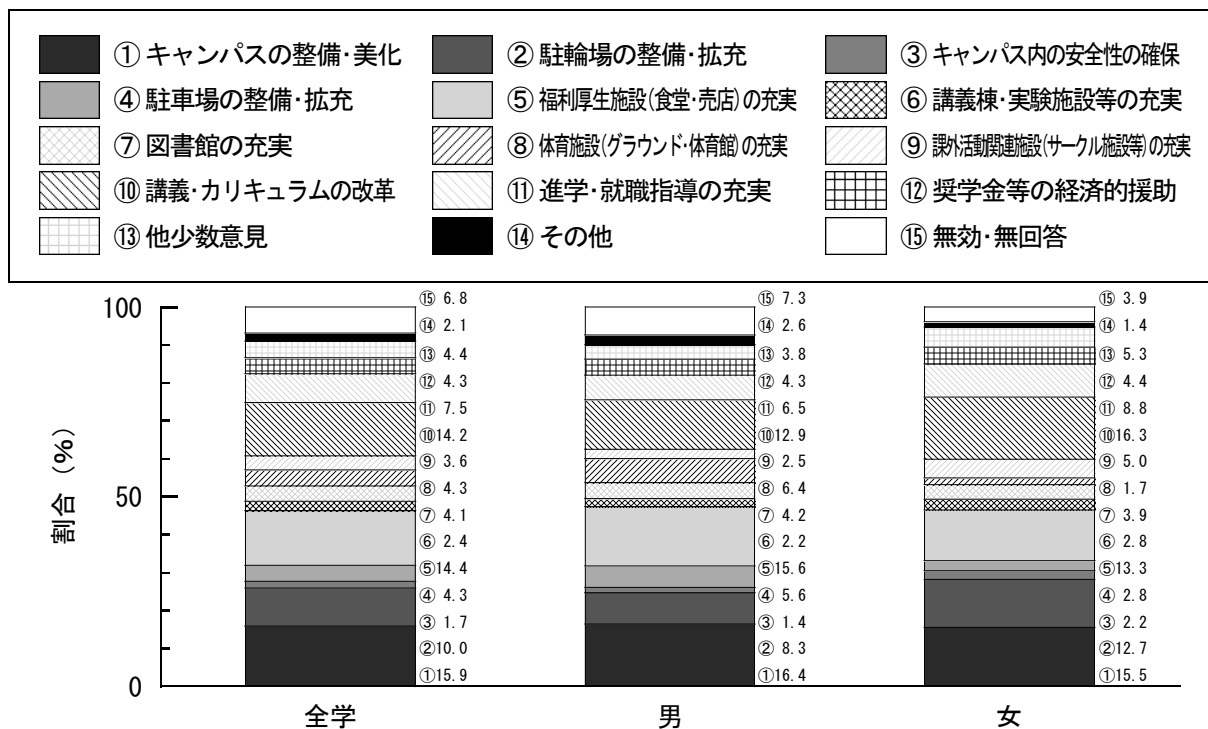


図 16-7-a Q68₁の集計結果 (全学・男・女別)

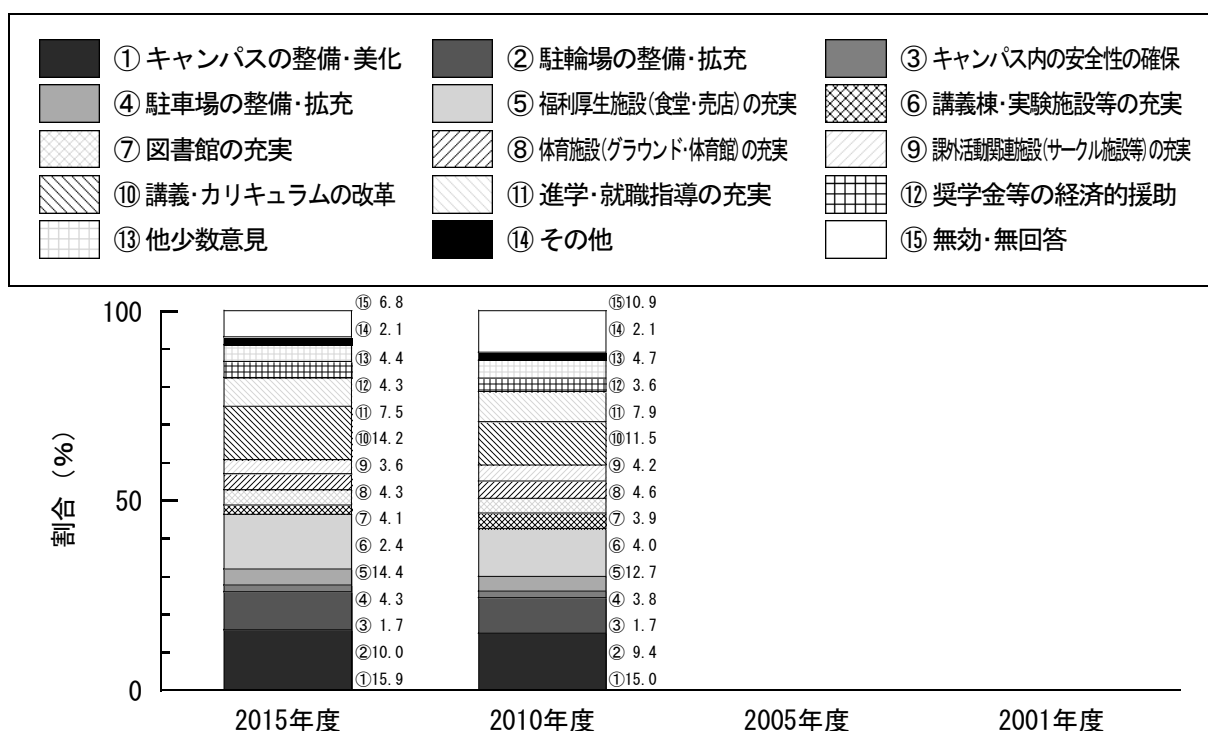


図 16-7-b Q68₁の集計結果 (全学に関する調査年度別)

Q68₂ 山口大学に対して優先的に取り組んでもらいたいことは何ですか

(優先順位の高い順に3つ選択して右欄に記入してください) <優先度第2位>

2番目の優先度では、「福利厚生施設(食堂・売店)の充実」が13.9%と最も高く、男女とも項目のなかで最も高かった。

2010年度との相違はほとんどみられない。

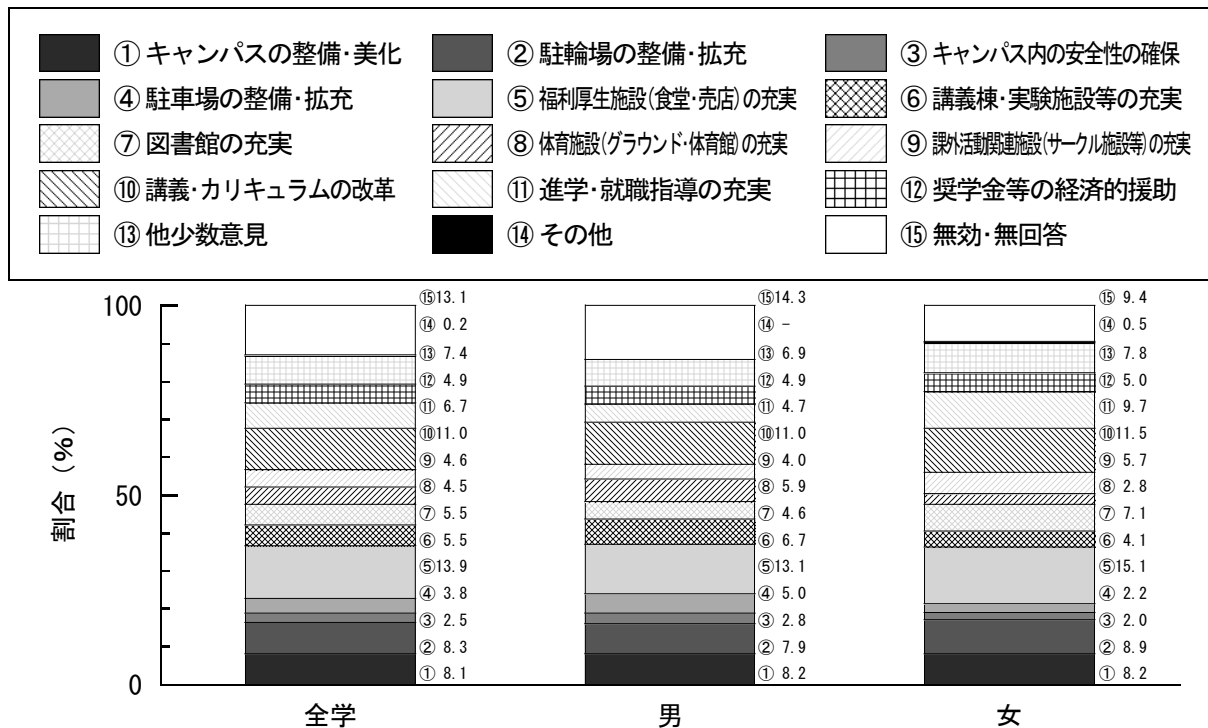


図 16-8-a Q68₂の集計結果 (全学・男・女別)

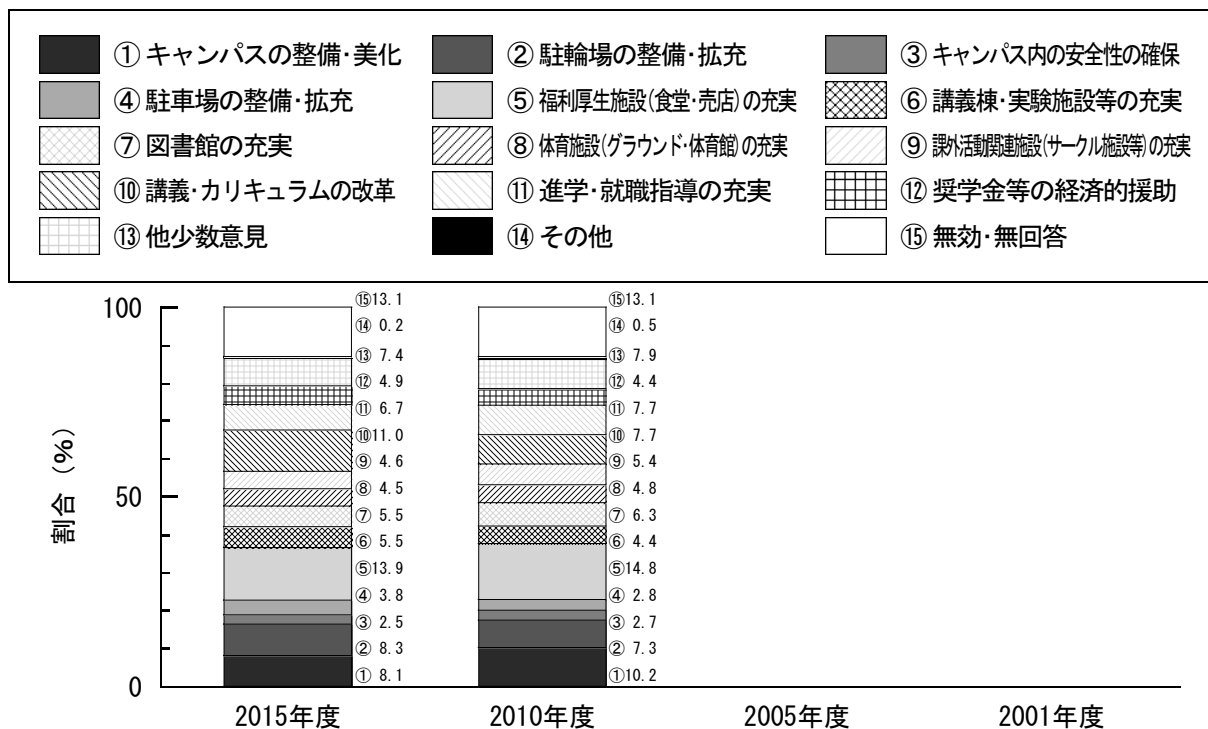


図 16-8-b Q68₂の集計結果 (全学に関する調査年度別)

Q68₃ 山口大学に対して優先的に取り組んでもらいたいことは何ですか

(優先順位の高い順に3つ選択して右欄に記入してください) <優先度第3位>

3番目の優先度では、おおよそいずれの項目も5%から10%となっている。

2010年度では「キャンパスの整備・美化」と「福利厚生施設(食堂・売店)の充実」が1割を超え他の項目よりも高くなる傾向があったが、2015年度では項目間の違いはほとんどみられない。

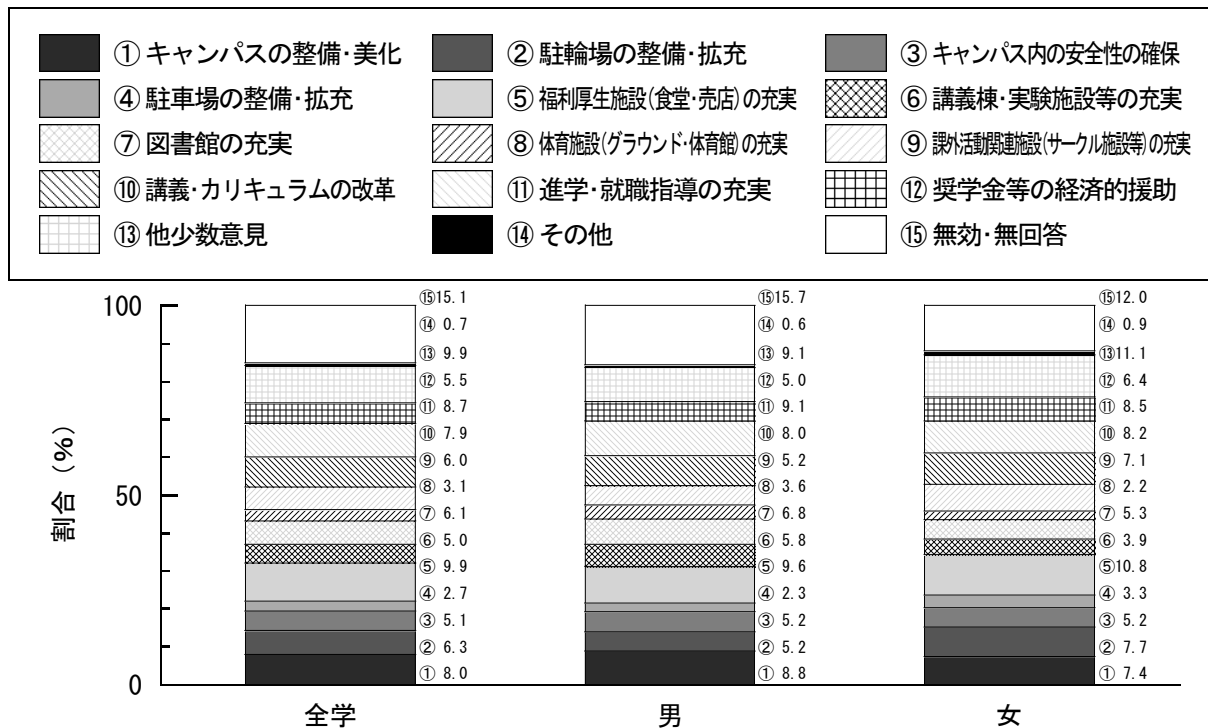


図 16-9-a Q68₃の集計結果 (全学・男・女別)

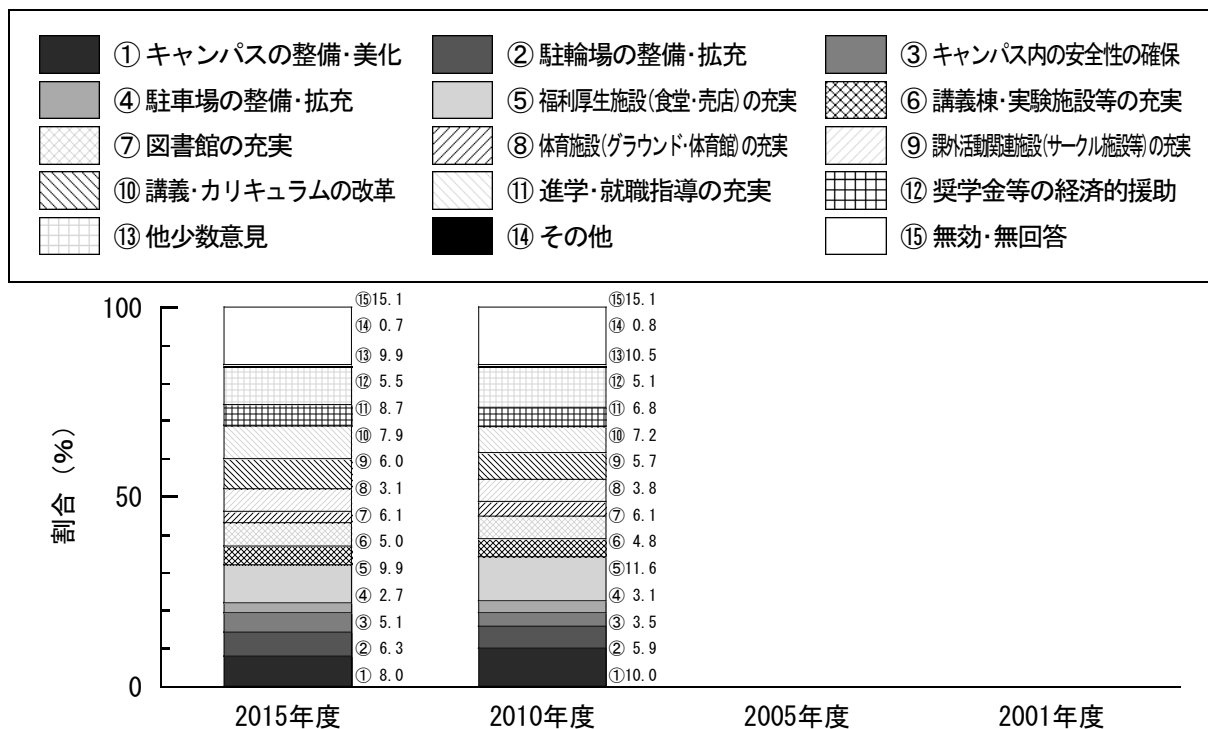


図 16-9-b Q68₃の集計結果 (全学に関する調査年度別)

Q69 山口大学に希望することがあれば具体的に書いてください

回答内容を整理すると、講義やカリキュラムについての記述が最も多くみられた。具体的には、「科目の選択をもっと自由にしてほしい（特に共通教育）」、「初年次から専門分野の授業を増やしてほしい」に類する記入が多かった。また、福利厚生施設の充実をもとめる記入も多かった。具体的には、「学内へのカフェやコンビニの設置」、「学食の改善（品質の向上、価格の抑制）」に関する要望であった。キャンパスの整備に関する記入も多くみられた。具体的な内容として、「キャンパス間の移動における不便の解消（バス運行）」、「学内施設（無線 LAN 環境、トイレ等）の改善」であった。この他には、「駐輪場の整備（スペースの拡充、屋根の設置）」、「体育施設の充実（グラウンドや体育館等の整備）」を求める記入があった。